



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成を
一人一人が輝く子どもの姿を求めて

☆3月の目標

- ☆学習をがんばる
- ☆みんなとなかよく
- ☆笑顔であいさつ

☆配布物のお知らせ

- 1 学校便り

☆今後の行事計画

- 3月17日 卒園式・卒業式
- 4月14日 入園式・入学式

※紙面の都合で、作文等を短くすることもあります。ご了承願います。

☆六年二組 忘れられない言葉

續木 遥仁

それは、すごく寒い麻だった。僕は、心が氷のように固まりそうに、イギリスの現地校フリス・マナーに入っていた。何もかも僕自身が静まりかえって、ぼくは無言のままだ。すぐに座っていた。それから二週間後、なんとなく学校に慣れてきたようだが、あまり外人との友達ができず、ただ教室に一人ぼっちで座っていた。しかし、クラスの中には、2、3人日本人がいた。その中でも、かずま君がぼくを一番支えてくれた友達で、僕の英語の人生を変えてくれた友達でもあると思う。

ぼくは、一か月後、だいぶ少しずつ友だちができてきたところだった。少しずつ外人としゃべれるようになってきた。フリス・マナーでは、それぞれの実力レベルでクラス分けがされていた。僕はもちろん一番レベルの低いところになっていた。僕は、英語をもっと上手くなってレベルアップしたいと思った。かずま君に宿題や英語の意味を聞いた。英語の実力を徐々に上げていった。かずま君がいらない授業の時は大変だった。なぜなら、自分だけで英語を学習していかねければならないからだ。しかし、やっていると、いかに慣れればならないか。先生ともお話をできてきて、いろんなことが上手にいくような気がした。

最後に、英語のレベル(SET4)が一つ上がった。僕は英語のレベルを上げることができた。しかし、その一か月後ハンガリーという国へ行く事になった。僕は、かずま君のおかげでこんなに英語の実力伸ばせた。僕は、いつも心の中で思っていた。ありがとう。かずま君

☆六年二組 忘れられない言葉

片岡 太一

恥ずべきは弱いものではない。弱いままの自分だ。ページをめくると一つのページをうめつく言葉が現れた。これはあるまん画の一つの場面、自分が無力だと思っているキャラクターが、あるもう一人のキャラクターにかけられた言葉だった。そして、この言葉はいつまでも名言として多くの心に残るだろう。

そのころのぼくは、スイミングクラブでずっと僕よりも遅かった友だちに負けていた。それまでは、クロール、背泳ぎ、バタフライ全ての種目で買っていた。でも、練習をしていくにつれて、その友達はどんどん早くなってきていた。誰にも言わなかったけど、僕は心の中であせっていた。何週間かたつと練習で今日は五百ヤードクロールのタイムを計る」と言われた。

スタートの合図で水に飛び込むと大会で泳ぐときと同じぐらいのテンポで泳いだ。最初の五十ヤードは、友だちと同じスピードで泳いでいたから、となりを見えていたけど、五百ヤードから、ふし、ふりきったかな」と思っていると、友達のレーンを見てみると、その友達はぼくよりも先を泳いでいた。そして、最後の五十ヤード残った体力を出し切ったけれど、ぼく、五分七秒でもだちは五分六秒だった。初めて、その友だちに負けた。

その日の練習はそのまま笑いがら過ぎたけど、自分的には、結構シヨックだったし、悔しかった。そんな時にあるまん画を詠んだ。そのまん画の好きなキャラクターには、年上の兄たちと姉がいた。そして、そのキャラクターにお前はできそくないだ。」と兄の一人が言い放った。そんな気持ちを抱いたまま、戦場へ向かったキャラクターは、兄の葉を思い出し、一歩踏み出せなかった。そこで、一緒に来ていた熱血先輩に喝を入れられた。そして、その先輩は言った。恥ずべきは弱いものではない、弱いままのものだ」

ぼくは、その場面を自分に置き換えた考えてみた。その時、やっと気づいた。本当にダメなのは、友だちよりおそかったことじゃなく、そこからおそいままだったことだ、それからは、積極的に練習をして、進化しようとした。そして、いつもあの言葉を自分言い聞かせた。

結果、練習態度も改め友だちに勝った。恥ずべきは弱いものではない。弱いままの者である。いつかこの言葉を誰かに言ってみたいと思えた言葉であり、ずっと心に残る言葉だと思う。

★一番の思い出は、

運動会です！！！

★一年二組

まき じゅんせい

きょう、ぼくはうんどうかいの、
かけっこで二いに、なれました。
二いもうれしかったけど、らいね
んはがんばって一いをとりたいで
す。



★一年二組

のだ あかり

きょうは、うんどうかいでした。
六十メートルそうをしました。わた
しは一いをとりました。大だまこ
ろがしものしかかったけれど、六
十メートルそうがいちばんたのし
かったです。はじめてのいちい
だったからです。いちばんわたし
が、がんばったとおもいました。



★一年二組

にしな さよ子

わたしが一ばんにおもしろかったのは、
たまいれです。
どうしてかというと、たまいれはたかく
ていれにくかったけど、ジャンプをして二
こぐらいはいったのでうれしかったです。
あかぐみがゆうしようしてうれしかった
です。



感謝

★保護者会の皆様へ

一年間お世話になりました。
ありがとうございます。

・「安全パトロール」の皆様

二十分休みや昼休みに見守って
いただきました。

・「図書係」の皆様

本の購入や図書室の整理、環境づ
くりを尽くしていただきました。

・「ベル係」の皆様

校内放送や、始業時間のお知らせ、
看病までお世話になりました。

・「コピー係」の皆様

宿題プリントや文集づくり、たく
さん印刷していただきました。

・「国際ボランティア、バス担当、役
員、地区委員さん」

多くの皆様方に、
日本語学校を支えていただき、
心より感謝いたします。
ありがとうございます。

☆五年二組

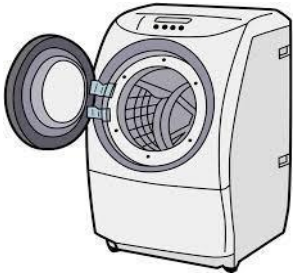
世の中は、くらしやすくなっている

延原 衣葉

私は、日本の社会は暮らしやすくなってきていると思います。なぜなら、電化製品の普及率はすごく上がってきているからです。グラフは、電化製品の世帯普及率を示したものです。

見てみると、1955年からどんどんあがっていき、洗たく機、カラーテレビ、冷蔵庫などを1955年と2015年で比べてみましょう。1955年は、20%、2015年では100%ちかくまでいっています。

このように、グラフをもとにして電化製品の普及率は上がってきていることを述べました。電化製品が増えたということは、それだけ、社会が便利になったといことだと思えます。なので、私は社会は暮らしやすい方向に向かっていると思えます。



☆五年二組

想像力 事実と印象

岩瀬太良

想像力のスイッチを入れよう」を読んで筆者の下村健一さんの考えにとっても共感した。それは、何が事実で何が印象なのかを自分できちんと考えるべきだ、という意見である。なぜかと言うとレポーターが書いた記事から印象を取り除いたら事実だけ残る。その事実だけを見ることは大切だと思ふ。印象は、事実に飾りをつけているようなものだと思ふ。だから、飾りをを全部取ってみるといいと思ふ。

もうひとつの理由は、私たちは、いろんな印象によって考えを変えられているということだ、例えば、レストランで食べた〇〇はおいしかった。」と言うのと、□□は舌がとろけそうなおいしかった」を比べたら、□□の方が〇〇よりも食べてみたいとおもうのではないだろうか。その表現は、人を引き入れるためのすごく強い印象であって、事実ではない。だから、公平に物事をかながえるには、印象を取り除きのぞかないといけない。ぼくも、実は似たような経験をしたことがある。それは、兄がこの歌すごくいいよ。聞いてみたら。」と言ったので、ぼくも、実際に聞いてみたら、兄が言うほどいいと思わなかった。このように人の意見はそれぞれ違うので、人の言う事うのみにしないで自分で判断することが大切だと思ふ。ぼくは、これからいろんな情報をみたり聞いたりしたら、印象を取り除いて、事実だけを見て実際に自分で考えていきたい。

☆四年二組

漢字の歴史について知ろう

中村 美咲

私は、漢字の歴史について知ろうと思いましたが、なぜなら、日本には「ひらがなやカタカナ」があります。それで意味が通じると思っています。それなのに、なぜ漢字が日本に来たのかとても不思議に思ったからです。インターネットで調べました。1.まず、漢字は三千年前に中国で作られました。だから、漢字は世界で一番歴史があります。でも、三千年前のことなので、くわしい記録はあまり残っていませんでした。2.漢字は、中国古代で発明された語を表す文字です。漢字は四つの文明で作られ、使われた唯一の文字です。3.最初に漢字が生まれたときは、王様だけが使っていました。王様は、亀の甲らや牛の骨などに書いていました。だけど、二十世紀に入ってくると、十億人が漢字を使うようになりました。4.たくさんの人が使う文字の中で、「音」ではなく「意味」を表す文字は世界でただ一つでした。それが漢字でした。日本では、文字で何かを伝えるときに大切なのは、正確で分かりやすくすることでした。だけど、カタカナと漢字にはそれぞれよいところと悪いところがあります。日本人は、カタカナと漢字のよいところを生かそうとしました。それで作り上げたのがカタカナと漢字を合わせた「漢字カナまじり文」でした。「漢字カナまじり文」を使うことで、とても正確で分かりやすくなりました。漢字というものは世界で意味を表す言葉でした。意味を表す文字がなかったら、漢字を取り入れませんでした。私は、漢字は日本から生まれたのだと思いました。だけど、中国から生まれたと知ってびっくりしました。もっと漢字の歴史を知ってみたいと思いました。